

令和2年(2020年)度

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科

博士前期課程2次募集(芸術工学専攻)

入学試験問題

小論文(60分)

【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は表紙を含め4枚あります。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙は1枚(両面)配布します。  
解答用紙には、受験番号、氏名を記入してください。
- 4 この冊子のどのページも切り離してはいけませんが、余白等は適宜利用してもかまいません。
- 5 試験終了後、問題冊子は回収します。問題冊子は持ち帰ってはいけません。

## 小 論 文

### 【設問】

資料1に示した文章では、「デザインする」ことについての警戒を促しています。  
デザインし過ぎた結果、本来のデザインを逸脱していると思われる事例を具体的にとり上げ、  
なぜそう考えるのか 600～800 字で記述しなさい。

資料1:『塑する思考』(佐藤卓、新潮社、2019)、PP.82-85

## デザインする。デザインしない。

私たちはよく、デザインを動詞化した「デザインする」という言い回しを耳にします。ご存知のように、電話するや食事するなど、名詞に「する」を付けて動詞にするのは、日本語ではごく普通の用法ですが、デザインの語源たるラテン語の designare (デシグナーシ) は、目印を付けて表示する、という意味の動詞で、英語の design も名詞である前に動詞なのです。元々「する」意味合いを含んだ言葉に、さらに「する」を付加するとどうなるか? 「デザインする」を「する」ことによつて、能動的に「する」ことばかりが強調されてしまう。これだけ「デザイン」がメディアで取り上げられ、日常一般に使われる言葉になってなお、ひどい誤解が生じ続けている大きな要因が「する」に潜んでいるのです。

ひたすら「デザインする」方向でデザインに向かえば、何かを「する」のが大前提になるので、デザインとして正当に「しない」でおく方向の選択肢は、そもそもあり得ないこ

とになってしまう。しかし世の中には、そのままがいいものもあるし、さほど「デザインする」ことを必要としないものもある。実はきちんとデザインされていても、いちいちデザインが目立たなくていいものは、むしろ数多い。なのに、「デザインは、するものである」の思い込みでデザインに向かうと、知らず知らず、デザインの発注者も受注者も、強迫的にデザインしなければと思ひ込む。こうして、新たなデザインなど施す必要はないからそのままにしておこう、という意味でのデザインは、ほとんどされなくなり、現状のままでいいはずの優れたデザインまでが、本当に残念なことに、私たちの前から次々に消えていきました。

このように、人を操り社会を委縮させてしまう危険な力が、「デザインする」という何でもないような言葉に潜んでいます。積極的な意味で時には「デザインしない」もしくは「デザインを変えない」といった大事な選択肢を、「デザインする」の一語に奪われている怖さを、よくよく認識しておかなければなりません。言葉には怖るべき力があるのですから。例えば「デザインする」が、民主主義を取り違えた我がままな個人主義、効率主義、さらには経済最優先主義と相まって、どれだけ田舎の長閑な風景を取り返しがつかぬまでに壊してしまったことか。今や日本中どこに行っても、田んぼは潰され大型の商業施設に巨大な看板が立ち並び、まあ似たような風景になり下がりました。こんな風景ばかりでい

いのかと嘆く人が、もう日本のどこにもいないかのように。闇雲に新しさを求めてきた結果としての、全国一律の下品な風景の裏側で、実は「デザインする」という危うい言葉が、何度となく飛び交って来たのです。

84

ここでは敢えて「デザインをしない」でおくという選択肢がない危険さについて述べてきましたが、どうしても必要な事物が新たに生まれる時に、デザインがなくてはならないのは言うまでもない事実です。こうした場合、当然ながら積極的にデザインを施す方向に向かいますが、気をつけなければならないのは、デザインの頂張り過ぎです。「デザインする」が「デザインしなければならない」心理状態を生むと、いかにもデザインしているように見えるものを、とつい思い込んでしまうからです。

身近な事例として、冷蔵庫のデザインについて考えてみます。冷蔵庫がキッチンという空間で「私はここにいるぞ！ 私だけを見てくれ！」と主張しているのが心地よいでしょうが、日常生活の中にすんなり溶け込んで機能してくれていければいいのであって、はつきり言って目立つ必要などどこにもありません。なのに、冷蔵庫のドアの取手には不思議な曲線や派手な色のアクセントが付いていたりする。静かに佇んでいてくれそうな冷蔵庫は少なく、メーカーが我が社のアイアンテイテイをなどと勝手に理屈を付けた、何だか装飾

的な処理が施されているものがほとんどなのです。何もしなくていいのに、つい何かしら施した装飾こそが「デザイン」だと思っている人がメーカーにも驚くほど多くいらつしゃるのと同じ、優秀なデザイナーが社内には必ずおられます。ところがデザインの本質を理解しているそういうデザイナーが、デザインしていないかのような見事なデザインをしたとしても会議ではまったく認められず、単にデザインしていないとされてしまうことがよくあるのです。

冷蔵庫が冷蔵庫以下であつては困るけれども、冷蔵庫以上であつても困る。人だけでなく物にも「わきまえ」が大切で、食品の出し入れ以外の時には、むしろ静かに存在を消してほしい。場合によってはキッチンの壁の一部に冷蔵庫が組み込まれていてもいい。もちろん機械だから壊れたりもするので、はずして取り替えられるように工夫しておけば問題ないのでは……。といった具合に考えをめぐらすのも、すでにデザインの端緒です。見てくれを飾りたてることだけではありません。そして二十四時間、黙々と食品を保冷し続けてくれる機能それしたいがデザインなのだという事実こそ、我々はもつと思いを致すべきではないでしょうか。

85